

森林計画に関する地区懇談会を開催



徳島県三好市（吉野川計画区）、愛媛県宇和島市（南予計画区）、高知県四万十市（四万十川計画区）のそれぞれ、三会場で「国有林野の森林計画に関する地区懇談会」を開催しました。



四万十市会場の地区懇談会

九月一五日に徳島県三好市、二七日に高知県四万十市、二八日には愛媛県宇和島市において、地区懇談会を開催しました。

今回の地区懇談会は、平成二三年度策定、二四年度から施行予定の「地域管理経営計画」と「国有林野施業実施計画」の策定作業に先立ち、広く国民から意見を聞くために開催するもので、このような場を設けるのは、昨年度に続き、今回で二回目となります。

会議は、森林管理局計画部長と森林管理署長の挨拶の後、担当者から計画制度の概要、国有林の現状と現行計画を説明し、意見交換に移りました。

ニホンジカをはじめとした有害鳥獣の駆除対策の要望、木材生産量確保に向けた期待や、県産材利用拡大へのこ入れの希望、民国連携に関する具体的な要望など、様々な立場の方々から貴重な意見や要望を聞くことができ、大変有意義な懇談会となりました。

年度明けの四月から本格的な策定作業に取りかかりますが、今回いただいた貴重なご意見・ご要望を踏まえ、地域の実情に即したより良い計画となるよう、努めていきたいと思っています。

〈局計画課〉

インターンシップの 受け入れ (総務課)



四国森林管理局では、インターンシップ(就業体験実習)の実習生を八月二三日から二七日の五日間受け入れました。

今回の実習生は、高知大学農学部三回生の垣内愛美さんです。管内の概要等を勉強した後、五日間の現地実習に入りました。

主な実習内容は次のとおりです。

- ①森林環境教育として、高知市立高須小学校での森林教室・木工教室にスタッフとして参加し、紙芝居を担当。
- ②生産・販売業務として嶺北署管内で国有林材の搬出現場と高知市仁井田の木材市場の見学。
- ③治山事業については、徳島署管内で地すべり対策工等実施箇所の見学。

④森林整備事業では、四万十署管内で造林事業と林道新設工事の実施箇所の見学・実習。

⑤高知県立牧野植物園の見学。

これらの中で、森林整備課の担当者(篠原設計指導官・藤原企画係長・芝森林育成係長)による四日目に実施した四万十署管内での実習の様子を紹介します。

午前中は、奈路(なろ)森林事務所の駄馬山(だばやま)国有林の実習地において、分収育林の伐採跡地への植付箇所において、苗木の植栽状況や下刈作業の実行箇所を見学した後、造林地の生物被害の中で最も深刻なニホンジカの食害対策として設置している防護柵の説明を受け、木を育てることの大変さを実感したようでした。

また、隣接する保育間伐を行った林内へ移動し、間伐の必要性について説明を受けた後、間伐していない林分の林内照度(林の中の明るさ)の比較を行いました。昼食後は、須崎森林事務所の橋ヶ谷林道に移動し、林道の新設工事箇所を見学しました。実習生の垣内さんは農学部でも工学分野のコースへ在籍とのことで、担当者から設計や路線の選定、土捨場作設等の説明を熱心に聞き、疑問点を質問するなど積極的な姿勢が目を引きました。

今回の実習が、これからの学業等に役立つとともに今後の進路決定の何らかの参考になればと思います。この日の実習を終えました。



林道新設工事箇所の説明

チェーンソーを使って 伐採を初体験 森林ボランティア 活動入門講座 (指導普及課)



九月一二日、「森林ボランティア活動入門講座」の第二回の研修会を、香美森林組合の森本業務課長を講師に「チェーンソーの取扱い」を実施しました。

最初に、チェーンソーの構造や安全な取扱い方について動画等を使ってわかりやすく説明していただきました。また、目立て(チェーンソーの刃の研磨)についてもやすりの選び方や使い方、器具を使うことで誰でも上手に研磨できる方法など習いました。

その後、高知県香美市谷相の山林へ移動し、講師の指導を受けながら実際にチェーンソーを使いスギの伐採を行いました。受講者は、チェーンソーの使用も山の現場に入ることも初めての方が多く、緊張しながら作業

に当たりました。初めは力を入れすぎてうまく切れませんでした。講師のサポートで全員が一本ずつ伐り倒すことができました。

受講者は伐倒作業を体験したことで、チェーンソーの取扱いはもとより、林業作業の大変さや危険性、木材流通の一端など学ぶことが出来ました。最後に自分で伐った木の切り株を輪切りにして記念に持ち帰りました。

この講座は、十一月(第三回目)に、木材の流通や利用、木造建築について学び終了します。



手ほどきを受けながら伐採

鷹取山きのご観察ツアー
―森林の達人―
(指導普及課)



九月一八日、高知県高岡郡梶原町鷹取山国有林において、「鷹取山きのご観察ツアー」を開催しました。

このツアーは、森林の達人達と連携した森林環境教育の取り組みの情報を発信するために、「きのこの達人」きのこアドバイザー荒尾正剛氏（日本菌学会及び日本きのこ学会会員、森林インストラクター）に講師を依頼し実施しました。

森林の達人は、多様な森林環境教育のニーズに対応するため、森林環境をフィールドとした遊びや活動に優れた四国四県の方々を「森林の達人集」にまとめホームページに掲載しています。

当日は、晴天の下、二〇名の方の参加により、午前

一〇時から約二時間、鷹取山の林内できのこを観察しました。途中、講師よりきのこの説明及び参加者よりオカリナ演奏のプレゼントもあり和気あいあいとした雰囲気でした。

午後からはそれぞれが採取したきのこをシートに広げ、同定してもらいました。全国的に残暑が厳しかった今年は、夏きのこが主流で期待通りの個体数は、見つかりませんでした。約五〇種の夏きのこを観察することができました。

中でも珍しい種とされている「ヒョウモンウラベニガサ」かなり腐食の進んだ広葉樹に生える。傘に斑点模様があることから豹紋の名が付いている。一九九一年に新種発表された日本固有種「可食」を観察することができました。



採取したきのこの観察

次代への森づくり
「古事の森」で
気持ちよく汗流す
(指導普及課)



いよのふたなのしまこじ
伊予之二名島古事の森育成協議会では、一〇月二日に、参加者三三名（一般公募）により、第四回、「伊予之二名島古事の森」森づくり活動を愛媛県久万高原町（石鎚山系の中腹）サル谷山国有林で実施しました。作業前に、協議会長（江崎次夫愛媛大教授）から、古事の森の設定趣旨と、「次代に引き継がれるべき文化財の保存と存続に不可欠な

資材を確保するための森づくりとの思いを込めながら作業をして下さい」との挨拶の後、歩道修理、獣害対策のための保護チューブの点検修理と刈りだしを行いました。

森づくり活動箇所は、近年、被害が目立っている造林木への獣害対策として保護チューブを設置してありますが、植栽当初から整備してきたこの場所も今年初めてイノシシによって掘り返された保護チューブが散乱していました。そのため今年の作業は、保護チューブの立て直しと造林木起こしを主体に実施しました。

参加者は、被害箇所を中心に、造林木を起こし、散乱した保護チューブの立て直し、回収、刈り出し、また、歩道修理などで爽やかな汗を流しました。

作業終了後は、面河溪谷近くで昼食を摂り、紅葉に



保護チューブ修理作業

「伊予之二名島古事の森」とは、松山城、道後温泉、木の文化の象徴する伝統的木造建造物の修復用資材確保を目的に平成一九年度締結された「木の文化を支える森づくり」

は少し早かったです。面河溪谷の散策を楽しみ今年の森作り活動を終えました。最後に、次世代に引き継ぐという長い期間に渡る取り組みは継続が大切であることを再確認し、来年の再会を誓い解散しました。 ※古代においては、四国を伊予之二名島と呼んだ。